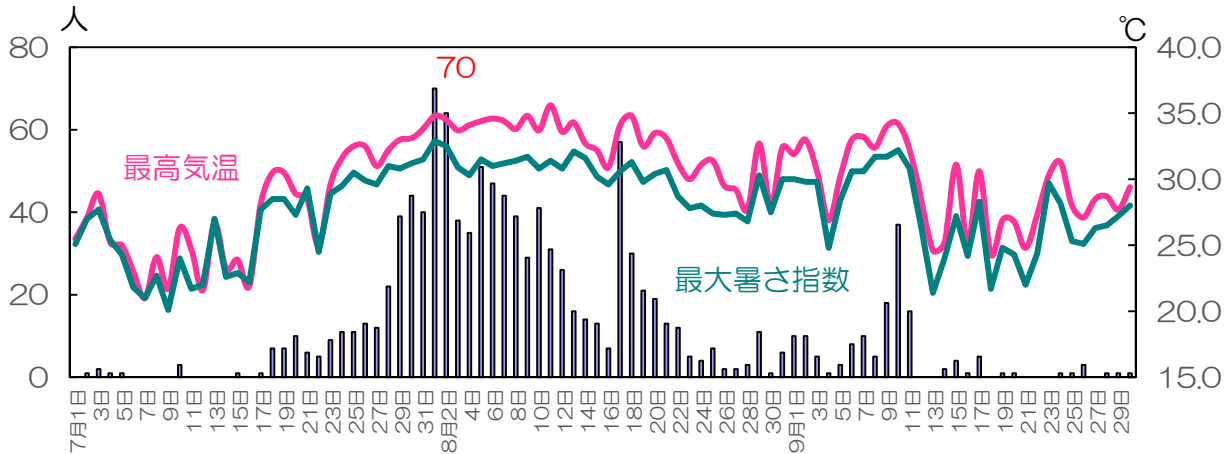


熱中症情報

<搬送数>

令和元年5月1日～9月30日までの搬送数（消防局データを使用）は、計1,244人（5月55人、6月40人、7月246人、8月758人、9月145人）でした。

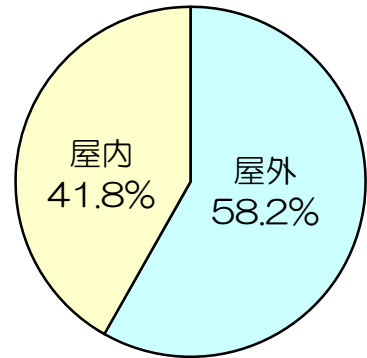
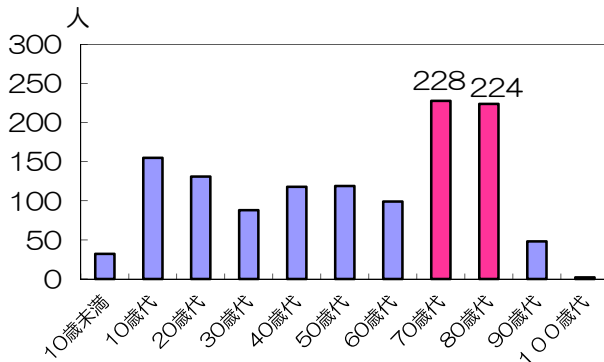
梅雨明け後の猛暑続きで、7月29日～8月8日は、1日の搬送数が30人以上でした。その後も暑さが続き、8月の搬送数は758人にもなり、9月上旬まで多い日が続きました。秋とはいえ、季節外れの蒸し暑い日があるので、熱中症対策は必要です。十分な栄養と睡眠で、体調を整え、熱中症にならないよう、こまめな水分補給とエアコン・扇風機を上手に使用して、暑さから身を守りましょう。



暑さ指数とは？ 人間の熱バランスに影響の大きい①温度 ②日射・輻射(ふくしゃ)など周辺の熱環境 ③気温の3つを取り入れた温度の指標 詳細は「環境省熱中症予防情報サイト [暑さ指数\(WBGT\)とは？](#)」をご覧ください。

<年齢別>

年齢別で多かったのは、70歳代が228人、**<発生場所>** 屋外58.2%、屋内41.8%で、80歳代が224人でした。



<重症度>

軽症58.0%、中等症37.4%、重症3.9%、重篤0.6%でした。重症・重篤の内、高齢者（65歳以上）の割合は約74%を占め、その中で、屋内の発生が約67%でした。高齢になると室内で重症化する傾向が伺えます。

